

学びのデザインシート		11月7日(月)	授業者( 富永 郁子 )	
学級名	2年3組	男子16名	女子14名	計30名
教科名	国語			
教材名	いにしへの心を訪ねる 『扇の的』—「平家物語」から			
本時の目標	○ 古典に登場する人物の特徴を捉え、自分の考えをまとめるとともに、文章を互いに読み合い、自分の考えを広げる。			
本時の評価規準	○ 作品に表れたものの見方や考え方に関心をもち、登場人物の思いを想像して人物論を書こうとしている。(関心・意欲・態度) ○ 人物の人柄や性格について、根拠を明確にして文章にまとめている。(読むこと) ○ 「平家物語」に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物の思いなどを想像している。(言語についての知識・理解・技能)			
<p>&lt;本時の授業の流れ&gt; (単元の指導計画11時間・本教材5/5時間)</p> <p>1 前時までの学習を確認するとともに、本時の学習の見通しをもって、「平家物語」を音読する。</p> <p>2 「那須与一」と「源義経」のうち、心惹かれる人物について交流する。</p> <p>学習課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">人物の特徴を捉えて論じよう</div> <p>3 心惹かれる人物について人物論を書く。</p> <p>① 人物の特徴を「○○は△△な人物である」という一文で表し、その根拠を明確にする。</p> <p>② 「自分はなぜその人物をそう捉えたのか」について伝えたいことを明確にしてまとめる。</p> <p>・「人物の特徴」「文章から読み取れること」「自分の考えや感想」という構成でまとめる。</p> <p>4 書き上がった文章を読み合い、感想や意見を交流する。</p>				
<p>&lt;授業者より&gt;</p> <p>○ 人物論を書くためには、書こうとする人物について、まず描かれている事実から読み取れることをよく理解する必要がある。作品を何度も朗読したり、内容を読み取ったりし、古典の世界を楽しんでいく中から自然と自分が心惹かれる人物が浮かび上がるであろう。また、描かれていない部分についても「こういう人物ではないだろうか」と自分なりに想像して書くことによって、文章の幅が広がっていく。その場合は、本文中のどの部分から想像できることなのか根拠を明らかにすることが必要である。</p> <p>○ 「扇の的」「弓流」の場面に登場する「那須与一」と「源義経」の言動など、人柄や性格が分かる表現に着目させ、読み取った情報を整理・分析し、人物論を書かせる。書いた人物論については、グループで交流させ、「平家物語」に表れたものの見方や考え方、登場人物の思いなどについて考えを深めさせたい。また、登場人物の人柄や性格が伝わるように、根拠を明らかにして書くことについての知識・技能を身につけさせたい。</p>				

